

令和3年(2021)の干支・御題菓子販売のお知らせ

株式会社虎屋(代表取締役社長:黒川光晴、所在地:東京都港区赤坂4-9-22)は、令和3年(2021)の干支「丑」と、歌会始のお題「実」にちなんだ新商品を期間限定で販売いたします。お世話になった方への感謝の気持ちや、新しい年への想いを込めた贈り物としていかがでしょうか。

<令和3年(2021)は丑年>



干支羊羹『撫で牛』

「撫で牛」とは、自分の病気や傷と同じ場所を撫でると回復すると言われている牛の像です。干支羊羹『撫で牛』は、鮮やかな紅煉羊羹で新年の寿ぎを、黒煉羊羹で「撫で牛」を表しました。

【販売期間】2020年11月下旬～2021年1月中旬(予定)

※一部取り扱いのない店舗もございます。

【価格】中形 1,944円(本体価格1,800円)
竹皮包 3,888円(本体価格3,600円)



干支パッケージ 小形羊羹

『夜の梅』(小倉羊羹)、『おもかげ』(黒砂糖入羊羹)、『新緑』(抹茶入羊羹)を、干支「丑」のパッケージでご用意しました。

新しい年を心穏やかに迎えたいという思いを込めて、牧場でのんびりと過ごす牛の家族を描いています。背景色は、日本の伝統色「常磐色」。冬でも色が変わらない松などの緑を、永久不変なものとして讃え、長寿や繁栄の願いを込めた吉祥色です。

【販売期間】2020年11月20日～2021年1月上旬(予定)

【販売店舗】全店

【価格】各1本 292円(本体価格270円)
5本入 1,620円(本体価格1,500円)



生菓子『ひだまりの丑』 湿粉製

小豆で牛の群れを、しっとりとした口当たりの湿粉製の生地で、牛たちがたたく高原のひだまりを表現しました。ゆったりと時が流れる高原の風景が想起される意匠です。

【販売期間】2020年12月16日～2021年1月15日

【販売店舗】関東・京都地区の生菓子取り扱い店

【価格】1個 454円(本体価格420円)

<令和3年(2021) 歌会始のお題は「実」>



御題羊羹『^{みの}実りのきざはし』

「きざはし」は「階」と書き、階段を指す言葉です。

白の琥珀羹に紅・橙・黄の煉羊羹を一段ずつ配し、夢に向かって着実に進み、積み重ねた努力が実を結ぶまでのさまを表しました。

【販売期間】2020年11月下旬～2021年1月中旬(予定)

※一部取り扱いのない店舗もございます。

【価 格】中形 1,944円(本体価格 1,800円)

竹皮包 3,888円(本体価格 3,600円)



生菓子『^{みの}実りゆたか』 薯蕷製

古来、日本人の暮らしは稲作と深い関わりを持ってきました。

『実りゆたか』は薯蕷饅頭に黄のにおい(色差し)をほどこし、刈り取った稲穂の焼き印を押したお菓子です。

【販売期間】2020年12月16日～2021年1月15日

【販売店舗】関東・京都地区の生菓子取り扱い店

【価 格】1個 486円(本体価格 450円)



生菓子『^{ゆきま べに}雪間の紅』 求肥製

南天は、「難を転ずる」に通じることから縁起がよいとされ、正月飾りにもよく用いられます。『雪間の紅』は、緑の求肥で南天の葉を、紅のカルメラで赤い実を、白のカルメラで降り積もる雪を表したお菓子です。

【販売期間】2020年12月16日～2021年1月15日

【販売店舗】生菓子取り扱い店

【価 格】1個 486円(本体価格 450円)

歌会始について

人々が共通の題で歌を詠み、その歌を披講する「歌会」。その中でも、天皇によって開催されるものを「歌御会」といい、年の始めに開かれるものは「歌御会始」と呼ばれていました。大正15年(1926)以降は「歌会始」と改められ、今に至ります。令和3年(2021)の歌会始のお題は「実(じつ)」です。

御題菓子とは？

その年の歌会始の「お題」にちなみ、考案されたお菓子。明治7年(1874)、それまでは皇族・側近などで行われていた歌会始に、国民の参加も認められるようになりました。こうして歌会始が身近なものになってきたことも背景に、明治21年(1888)、京都の上菓子屋の有志が集まり、「お題」にちなむお菓子の展示を開催。これをきっかけに歌会始にちなんだお菓子をつくる店が増えていきました。当店では明治40年(1907)に記録があります。

<取材に関する問い合わせ先>

株式会社 虎屋 マーケティング部広報担当 黒川さゆり 住所：東京都港区元赤坂1-5-8 虎屋第2ビル3階
電話：03-3408-4128 FAX：03-3408-6274 E-mail：kouhou@toraya-group.co.jp WEB：www.toraya-group.co.jp